

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっかい生きてます!



巻頭言

MESSAGE from YUTAKA

メッセージフロムゆたか

理想郷づくりに向かって 走り続ける



初夏を迎えても、相変わらず世の中は鬱屈(うっくつ)した気分が蔓延しています。もう1年以上になるというのに、コロナ・パンデミックの惨禍は沈静化の兆しが見えません。肝心のワクチン接種もまだまだ巷には行き渡らず、新たな変異ウイルスによる感染拡大が懸念されます。人間はそんなに強くはありませんから、出口が見えない状況に振り回される生活が続けば、つい緩みも出てきます。とりわけ潮騒JTCのような高齢者の多い民間福祉施設では、薄氷を踏む思いの忍耐生活も限界に近づきつつあります。感染者が出ていないのが奇跡に思えるほどです。しつこいと言われようとも仲間たちには、感染防止に向けた注意喚起と徹底した励行を促す以外に手はありません。施設としては入寮者にミーティングの場で今のつらい気持ちを吐き出してもらい、お互いの絆をより強化していく、そうした地道な努力をみんなで続けることに尽きます。何とか日々の小さな出来事や出会いに、喜びや希望につながる要素を見つけてほしいものです。

個人的には5月10日に都内で予定されていた「日本ダルク35周年フォーラム」の開催に期待していました。関係者の話によると、感染防止を徹底して、各ダルクや関連施設からは代表者数人だけの限定参加とし、オンライン配信によるフォーラムとして実施する計画だったようです。メモリアルな当該年だった昨年夏の開催が流れていただけに、私も「今度こそは…」と熱い期待を寄せていました。潮騒JTCも昨年暮れに開くはずだった、節目を祝う「15周年フォーラム」が中止を余儀なくされていたので、今回の日本ダルクフォーラムが成功

すれば、オンライン・フォーラムに新たな可能性を見いだせるだろうと踏んでいました。しかし、急きょ3度目となる緊急事態宣言が東京都に出されたことから、予約していた会場使用が困難となったために、またもや延期となりました。仕切り直して9月に開くようですが、果たして本当に開催できるかどうか、予断を許しません。ワクチンの普及と東京五輪・パラリンピックの動向が鍵を握ることになるでしょう。猛威を振るう新型コロナウイルスを恨めしく思うばかりです。

でも、これも神様(ハイヤーパワー)が私たちに与えた試練なのかもしれません。今までだって潮騒JTCの歩みは順風満帆ではありませんでした。何度か荒波にもまれながらも、難破せずに今があります。曲がりなりにも潮騒がこの地に存在できているのは、仲間たちに必要とされているからです。また、私たちを支えてくれている理解者、支援者の皆さんの力によるものです。行き場のない250人を超える入寮者の命を預かる施設のリーダーとしての責任はとても重く、ともすると「このご時世だから何もしないで“守り”に入っていた方が得策ではないか」との思いが脳裏をよぎります。でも、私は生涯にわたる挑戦者を自認する「夢追い人」です。たとえドン・キホーテと馬鹿にされ、笑われようとも、自分が信じる夢＝理想郷づくりに向かって命ある限り走り続けます。私には楽隠居や好々爺(こうこうや)の人生は似つかわしくありません。走り続けるのをやめたら、その時点で私の人生はジ・エンドです。どうか今後も潮騒JTCを温かく見守りください。

(法人理事長 栗原 豊)

コロナ禍における施設運営の課題と展望

追加版

連載

中

現場の課題解決に向けて 7チームを設置

「潮騒チーム・プロジェクト」を 遂行するメカニズムに



前回、組織改革の背景で述べたように「潮騒チーム・プロジェクト」は大規模化した潮騒JTCの特徴を生かしながら、グループ内で生起する個別の課題により柔軟に、横断的に対応できるようにしたものです。一向に出口の動きが見えないコロナ禍にあって、「みんなで知ろう! みんなでやろう!」をスローガンに、当事者活動(ピアサポート)の意義を再確認する、施設を挙げた意欲的なプロジェクトです。

社会的な受け皿のない高齢の依存症者を積極的に受け入れて、いわば自然の流れで大規模化した潮騒JTCですが、多様な入寮者をどうまとめるか、スリッパにつながる孤立化をいかに防ぐかは、施設運営にとっての大きな課題です。

新型コロナウイルスの感染拡大によって、孤独や孤立の社会問題を反映した高齢入寮者も新たに加わり、潮騒グループ内では治療共同体の基本原則が通用しない事態にあちこちで直面しています。出口が見えずに増大するストレスの中で思うように回復者が生まれず、新規入寮者の早期退寮や回復途上のサポーターの途中退寮、さらにナイトケア施設内では仲間同士の小競り合いや隠れ飲酒問題も発生していました。

これらの課題には、当事者サポーターや一部職

員らでつくる「夜回り隊」が既に活躍していることは、本紙2月号で報告しました。できるだけ上から目線での管理的な対応を避けて、夜間における各ナイトケア施設での生活全般の見守りをするすることで、少しずつ入寮者も落ち着きを取り戻しています。この動きと連動する形で当事者サポーターの職員登用による人材の育成、さらにはミーティングに嵌(はま)まれない人たちの下支えと受け皿づくり、自助グループ精神を鼓舞し回復への動機付けを強化するクリーンバースデイの再開(5ページに記事)…と順次、できるところから手を打ってきました。

これらは潮騒JTCにとっては「小さな改革」とも言える動きですが、「潮騒チーム・プロジェクト」は、さらにコロナ後をにらんだ一つのビジョンとしてステップアップした取り組みです。

総論的にいえば、潮騒グループの中核をなすNPO法人潮騒JTCに、百寿(高齢者介護デイサービス)、はまなすクリニック(精神科・心療内科)、株式会社・潮騒(不動産関連等)など潮騒グループ内の各事業所を、縦の繋がりから組織横断の有機的なシステムの在り方へとシフトすることで、風通しのいい治療共同体型のコミュニティーに原点回帰するものです。

具体的には、職員アンケートを実施して浮き彫りになった各現場における諸課題に対応するため、▼就労指導 ▼トラブル対応・対策 ▼財政 ▼相談対応 ▼医療・介護連携 ▼情報管理 ▼施設営繕 ▼衛生管理 ▼CRCT(条件反射制御法)の7チームを立ち上げました。

各チームは個人の能力や資質、持ち味などを考慮して適材適所を判断しながら事業所の枠を超えて担当メンバーを選出し、それぞれチーフ(代表)がチームを引っ張ります。各チームは月に一度を原則にそれぞれで会議を維持し、構成メンバーが事業を遂行する基本スキルの報告・連絡・相談を身に付けています。そして新たなアイデアを生み出すことも期待されます。

本プロジェクト提案者のヒトシさんは「まだまだ手探りの試みですが、グループ内の横の風通しが良くなった感じがします。潮騒は図体がでかくなった分、小回りが利かなくなった。円滑に動くためにはオイル交換が必要です。今回のチームプロジェクトが、そうした役回りを果たせるようにしたいです」と期待を寄せています。(次号に続く)



正念場を迎えた 潮騒農業の現状と課題

「福祉農業」から脱皮し
自立農業を目指す

就労支援（就労継続支援B型）事業として取り組む潮騒農業が転換期を迎えています。事業計画によれば、今年度もコメづくりを主体に年間を通して計画的にバラエティー豊かな野菜の栽培に挑みます。主力のサツマイモは干し芋や焼き芋を安定的に生産・供給できるようにし、「売れる」を意識した新たな加工品づくりにもチャレンジします。半面、農業隊に参加する新たな人材の確保とスムーズな世代交代、市場ニーズを踏まえた生産と販売戦略を可能にするコーディネーターの育成など、新たな課題も浮上しています。これまでの「福祉農業」から脱皮して、自立できる潮騒農業の方向性を模索する時期に来ています。



潮騒農業の主体となる米作では、昨年実績よりも作付面積を増やして合計6町歩（約6ヘクタール）とし、ゴールデンウィークを挟んで田植え作業を終えました。後継者に悩む高齢農家の依頼で受託水田は増え続けていますが、問題は鹿嶋、大野、潮来と3地区に散在していることから、移動に時間が掛かることです。鹿嶋地区に集約化できれば作業効率も大きくアップし、少ない人数でも水田耕作の安定化が図れます。またメンバーの運転技術の未熟さなどもあって農業機械の故障も多くなっており、修理費の負担も重くのしかかっています。

潮騒農業を担う農業隊はアルコール中心の依存症者16人ほどで構成していますが、ベテランメンバーが高齢化し通年活動が難しくなっています。さらに昨年末からリーダー的な存在だった主力メンバーの入院や離脱が続き、人材不足が深刻化しています。マンパワーの強化が望まれるなかで、朗報なのは新たに農業隊に加わったメンバーが地元で長く農業に従事した経験があり、トラ

クター運転などに精通していることから即戦力として貢献しています。施設の宿命とはいえ、安定した人材の確保とリーダーの育成、農業技術を含め新旧メンバーのバトンタッチが急がれます。

一方、通年で挑む多品種の野菜づくりですが、主力のサツマイモや青パパイヤ、ジャガイモ、ダイコン、ホウレンソウ、タマネギ、夏野菜（トマト&ミニトマト、トウモロコシ、ナス、キュウリ、シシトウ等）は露地とハウス栽培で取り組みます。昨年からは本格生産を開始した納豆用の藁苞（わらづと）づくり、昨年試行的に挑んだソバ栽培などは収穫物の保管と販売ルート開発に力を入れます。

これまで安定生産してきたサツマイモですが、昨年は予期せぬ病気が発生してしまい、生産量が半減して干し芋や焼き芋の人気加工品の商品化に支障が出てしまいました。苗の段階で問題があったらしく、育成に関する情報確保に留意することが教訓となりました。野菜類は生産過剰となりやすいため、販売戦略を確保するためにもコーディネートできる人材育成が急務です。新たな加工品（アイスクリームや乾燥野菜等）開発も待たれます。生産量が増えた加工品の稲わらは納豆用のほかにワラジやしめ縄など新たな用途への提供を模索します。

農業隊リーダーのヒトシさんは「単に作ればいいだけの農業では廃棄やロスが多く、モチベーションが下がってしまいます。福祉的な意味合いの農業に甘んじていると将来ビジョンが描けず、せっかくノウハウを身につけたメンバーが潮騒を去ってしまう。この現状を打破するためにも、きちんと情報を入手してバランスの取れた生産・販売体制を確立し、新たな商品作物と加工品開発に挑むことです。潮騒農業は自立に向けて正念場を迎えています」と指摘しています。

クリーンバースデー

「ワンデイ」の重みと意義を再確認



潮騒JTCで暮らす入寮者のクリーンバースデーを祝い、その喜びを仲間たちと分かち合う取り組みが4月30日、潮騒の関連事業所が入居する鹿嶋市宮中のユタカビル3階フロアで約2年振りに再開されました。

クリーンバースデーとは、その名の通りアルコールや薬物、ギャンブルをやめた日(ワンデイ)を新たな誕生日とする考え方で、地域の自助グループで定着しているクリーンタイム記念日を祝う習慣を、潮騒独自のスタイルで行っているものです。

当事者にとっては回復の歩みの証しとなるメモリアルな行事であり、クリーンバースデーを迎えた本人だけでなく、周囲の仲間たちにとってもクリーンを持続する動機づけや励みになります。仲間同士の絆を強くするもので、自助グループではそのグループの安定を裏付け、施設においては仲間たちの一体感の醸成に役立ちます。

潮騒JTCではこれまで自助グループでの経験豊かな古参メンバーが中心となってこの行事を担ってきました。NA・AA・GAなどの自助グループには独自の決まり事が歴史的に形成されています。このため潮騒では施設独自の取り組みとして細かな“縛り”に囚われずに、依存対象の垣根を越えて祝ってきました。しかし、自助活動に精通していた担当メンバーが亡くなり、折からのコ

ロナ禍もあって、この取り組みは中断を余儀なくされました。一方で、入寮者の中に自助グループ経験のない人たちが増えていることから、改めてワンデイや回復の意味を考え合う機会が求められていました。

今回のバースデーではクリーンタイム1～3年の仲間9人が対象となりました。以前は大勢で祝っていましたが、コロナ禍によって参加人数を制限したことから、それぞれが祝ってほしい仲間一人を選んで参加を求め、これに栗原センター長や職員らを加えた総勢20数人が集まりました。該当者には各クリーン期間を表すキータグと仲間の寄せ書き色紙が贈られ、それぞれが「さらにクリーンを積み重ねたい」と決意を込めて挨拶しました。会場にはシュークリームとジュースが用意され、和やかに懇談しました。

潮騒JTCではコロナ禍の影響でほとんどの行事が宙に浮いた形だけに、今回のクリーンバースデー再開は停滞感が漂う中での朗報と言えます。仕切り役を務めた職員のタチさんは「ギャンブル依存症の私も含め、改めてワンデイ(今日一日)の重みとその意義を確認できました。仲間同士で回復の喜びを分かち合うことは、感謝と希望につながります。新しい仲間を勇気付け、さらに古いメンバーも勇気付けます。これからも定期的に関きたい」と話していました。(10ページに関連記事)

お酒で失った過去から 新しく生き直したい

vol.01 シンジ回復期



アルコール依存症のシンジ(39歳)です。私が潮騒ジョブトレーニングセンターに入寮したのは、令和2年の5月20日です。この回復期を書いているのが5月16日なので、もうすぐ1年のクリーンを迎えます。今回、この話(自分の回復人生を原稿にする提案)をいただいて、ちょうどいい機会なのかと思い、回復期を書かせてもらうことにしました。

中学時代から同級生と 週2~3回は飲み会を

私が初めてお酒を自分で買って飲んだのは、中学2年生の夏の時でした。同級生のたまり場となっていた自宅で、最初は好奇心、悪ふざけの延長でやったことでした。自宅の冷蔵庫にはビールがあり、流し台の下にはワイン、日本酒、焼酎など、様々なアルコールがありました。しかし、後でバレて母に怒られたくなかったため、それらには手を付けませんでした。

自分で買って飲んでみようと同級生と近くのコンビニへ行き、ビール、チューハイなどを買って自宅に戻り、さっそく大人の真似事の“カンバイ!”をして、いざゴクリ。私はビールを飲みましたが、最初はすごく苦くてまじったのを憶えています。

ですが、2、3分くらいしてからフワフワとしてきて、とても気持ちが良くなってきたのです。これが酔っている感覚なんだと思いました。同じくビールや酎ハイを飲んだ同級生たちは、吐いてしまったり、眠ってしまったり、「こいつらはお酒が飲めない子供なんだ」とバカにしていました。

それからは週に2、3回自宅に集まり、飲み会をする程度になりました。私は中学を卒業しても高校へは進学せず、トリマーの専門学校へ行きました。私がバイトをしていたせいか、母もお酒を飲むことをOKしてくれ

たので、そこから毎日飲むような生活を送るようになりました。

仕事をクビになっても 飲酒が止まらず

でもまだ、お酒に強くはなく、大人と一緒に飲むと最初につぶれていましたが、徐々に大人と同じペース、もしくはそれ以上に飲めるようになっていきました。18、19歳頃には朝から飲むようになり、休みは朝から夜まで飲んでいました。翌日は仕事なのに、酔いが醒めない二日酔いの状態で仕事に行くことが多くなりました。

そのうちに迎え酒もするようになり、工作中に飲酒し、最後は仕事を休みがち、もしくは無断欠勤をして、ついに仕事をクビになりました。それでも「自分は悪くない、悪いのは自分を分らない周りの人や自分に合わない環境のせいだ」と、自分を棚に上げて責任転嫁していました。

そのイラ立ちからさらに酒量は増え続け、酒が切れると離脱症状から手がふるえ、汗が止まらず、落ち着きがなくなりました。そうすると、もう酒のことしか考えられず、どんな時間、場所でも、酒を手に入れようとしていました。

さすがに家には母がお酒を置かなくなり、お金や通帳やハンコまでも母が管理するようになりました。それでも私はいろいろな方法で酒を手に入れ、飲んだくれて、酔いつぶれて、家族にはさんざん迷惑を掛け続けました。

困り果てた母を、姉が見ていられなくなり、いろいろ手を尽くして調べてくれました。そして都内のあるクリニックを見つけてくれて、そこに行くことが決まりました。しかし、私はまだその時、自分がアルコールに問題があること、自分の問題さえも分かっていませんでした。

(次号につづく)

受刑者 からの手紙

「受刑者の手紙」は本来は公開されることを前提としていない私信ですが、当事者の本音が書かれており、依存症回復の第1歩である「自分に正直になること」を示す手本です。プライバシーに配慮し、掲載させていただいています。

人に流されて受刑生活を送る事だけはしたくない

前略。先日、無事に当所に移送をされました。自分が希望している刑務所に移送をされて、すごくホッとしているところです。入所時は拘置所から6名で来たのですが、今は新型コロナウイルスの関係で、関東から来た人はまず健康観察期間として、おおむね2週間を目途に、そこから考査房、新人工場に移動していくらしいのです。

自分たちは残念ながら、独居でのスタートとなりました。身元引受人の方はしっかりと書かせていただきました。俺も今回ばかりは本当に覚醒剤を使わない生き方をしたいと、心から思っているところです。この気持ちを忘れずに、今はまず無事に工場が決まって、配役をされるまで、気を引き締めて新人工場での行動訓練を乗り越えようと思います。

来週3日間、舎房での作業をすれば、ゴールデンウィークが始まります。当所では飯がとてもうまいですよ。担当のおやっさんもすごく常識的な感じのいい人で、普通の事をやっていれば、大丈夫だと思います。なにしろ、あと3年もありますしね。引受人が決まって、無事故が続けることによって、1日でも早く娑婆に出られるということですから、焦らずに一步一步、身近な目標を持って生活していこうと思います。

ところで手紙の返事を書いて下さる方は何処の刑務所を一番長く務めたのですか？その辺を詳しく教えてください。この中の生活は、手紙が一番うれしいものです。俺の方もお金に余裕があって務めているわけではないので、郵便書簡で出す時もありますが、どうかお許し下さい。まだ、今日で3日目、いろいろとルールや

規則を憶えなくてははいけません。

俺は令和5年度中に出たいという目標を、これから選定しようと思います。もちろん薬物離脱指導も受けて、この受刑生活を人に流されて送る事だけはしたくありません。拘置所の時、少しだけ日用品を買いだめしておいてよかったですよ。出所したら、自分の身体、歯を治したり、色々とやる必要がありますから。もちろん、自動車運転免許の更新や資格証の再交付(郵送にて)もあります。とにかく自分としっかり向き合って、新天地、茨城の鹿嶋で再出発をしたいと強く思っています。

こちらに来て、どうしても老眼鏡を購入しないと近場の文字が見にくいので、特別購入をしました。ずっと使えますし、どの工場にいくか分かりませんが、俺が希望をしているのは、舎内掃、内掃洗濯、営繕、立作業を目指して、1日1日を落ち着いて生活しようと思います。ちなみに今日のメニューは長シャリでスープスパゲティ・ハヤシソース・ブレンオムレツ・枝豆サラダ・パインと最高でしたよ。まだ、パンは食べていませんが、ゴールデンウィークの祝日菜がとても楽しみです。

返信を書くのは大変だと思いますが、いつもペンで書いてくれていることに、とても感謝しています。たくさん書いてくれるとすごく励みになるので、引き続き、よろしくお願い致します。それと、66歳はおじいちゃんではありませんよ。

急いで書いているので乱筆乱文お許しください。それではまた、来月に入って落ち着いたらまた手紙を書きます。草々。

(福島県 Mさん)

しおさい俳壇

5月のお題 ほととぎす

選者 桐本石見

特選句

静けさの
朝の前山ほととぎす

れいこ

時鳥（ほととぎす）は歌謡にもある様に、卯の花の頃渡来し少しけたたましい声で鳴く。万葉集にも百五十余首も詠まれていて、古来から初夏を告げ田植の知らせともされた。静かな前山の朝を破る時鳥の声も清々しい朝を思う句。

特選句

ほととぎす
農夫の鋤を休ませぬ

ラク

今は耕耘機の時代だが、まだ鋤仕事もある。ことに山家の門畑などでは鋤を使う、初夏の日和に時鳥の音が聞こえ、鋤を休めて聞き入る。如何にも田舎の景を彷彿する句で、私も故郷が懐かしい。

特選句

ほととぎす
色となりぬる筑波嶺

ゆたか

筑波山は関東の歌会の山として古来から名高い。初春の頃はまだ芽吹きも揃わないが、時鳥の渡来する頃には山頂まで若葉若葉に彩る。山裾は梨、栗、柿などの果樹園の緑も美しい初夏を彷彿する句。

秀逸句

今月の秀逸句

姥捨ての
山深く聞くほととぎす

ゆーみん

姥捨山は千曲市筑北村にあり、標高千二百五十余メートルで田毎の月も名高い。また伝説の「灰の縄」「蟻の糸通し」や檜山節考など老いの生き方を痛感する。時鳥の声も叫び声に聞える句で、現代の老人問題も思う。

森静か
雨の晴間のほととぎす

アベ

鹿島神宮の森かも。雨が止んで晴間も見えるので、散歩に出掛ける。静かな森の道に時鳥が聞える。声は森の木々に木霊す様でもあり、如何にも初夏を思う句。

時鳥
鳴ひてみなはれ夜をしのぶ

いるか

「みなはれ」は関西弁の一つで、希望の意。時鳥は夜鳴くこともあるので忍音とも言われ、万葉集に『あしひきの山ほととぎす汝が鳴けば家なる妹し常に思はゆ』（沙彌）などあり、恋心にも託される。

磯馴松
一喜一憂ほととぎす

タイチ

磯馴松（そなれまつ）は海風になびき形を色々変えた松で、大きな松の盆栽など思うし磯の岩の景に似合う。その松の姿を一喜一憂と言うのも面白いし、時鳥の声もまた激情を誘う句。

巣作りを
せずに樂する時鳥

ヒロ

ほととぎす
鶯の巣に子を預け

イサ

時鳥は託卵と言う習性があり、鶯の巣に卵を生み孵（かえ）して貰う。現代の人間社会にも赤ちゃんポストなどあり、親子の絆愛情など思う句でもあります。

ほととぎす
近き鳴き声耳にしむ

オノ

時鳥の鳴き方には、本尊掛けたか、特許許可局、など人により時代により異なる。朝も夜も鳴くが、近くで聞くと耳に滲みる程けたたましい。しかし夏の到来を知る句。

佳作

ほととぎす遠くの声も心しむ	まこ	夕闇に鳴いて嬉しきほととぎす	ミニー
伝えにも武将の気質ほととぎす	ブッチ	ホーホケキョ上手くなるまで練習す	えび
甲子園ウグイス嬢の声さやか	みっちゃん	たくましや海を渡りきほととぎす	めい
ほととぎす何時もおどろく散歩道	ニモ	忍び鳴き季を告げたるほととぎす	ちあき
ほととぎす旅に出づ日の朝の道	あっちゃん	コロナ禍やされどやすらぐ時鳥	アオ
故郷や山に響けるホーホケキョ	ひーちゃん	夜の風に聞こえて静か時鳥	あきら
ほととぎす信長公の岐阜思ふ	しま	ほととぎす捨て犬走れまた走れ	えいちゃん
庭先に朝の声立つほととぎす	チャコ	ほととぎす止まり木探し空に舞ふ	みく
離愁とや今ほととぎす野路に声	アベ	葉桜の朝の道々ほととぎす	ジーバ
ほととぎす声に鋭く季を告ぐ	くま	ほととぎす筑波嶺に今声わたる	ゆたか
ほととぎす皆も頑張れ願い鳴き	のん		

俳句へのいざない

第十六回 文字の使い方

漢字は紀元前千三百年頃、中国の蒼頡(そうけつ)氏が甲骨文字として考案し、六世紀頃に現在の楷書が完成したと伝わります。日本へは四世紀頃に伝来し、その後万葉仮名として使われたとされます。例えば、山は也麻、春は波流など。

その後平安時代に、ひらがな(女性が主に使う)、カタカナ(男性が主に使う)が考案され、日本では漢字と合わせ三種類の文字が使われることになり、世界で一番文章の難しい国になったと言われます。しかし、これによって微細な表現や心を伝える事も出来ます。

従って十七文字の俳句を詠み、紙に書く時には漢字か、ひらがなか、カタカナか、を一考して頂きたいです。例えば、森、杜、川、河、山、嶺など漢字を見て、その景を想像出来ます。殊(こと)に漢字は象形文字なので実景が見えます。

漢字ばかりだと硬い感じなのでひらがなを使いますが、ひらがなは漢字と漢字の繋ぎや、花の散る時の「ひらひら」の様に使い、また「花あやめ」などは、ひらがなが似合う思いがします。カタカナは外来語に合う様で、クリスタルなどは実感がでます。

なお漢字は音読み、訓読みも考えて、句が出来たら心を込めて推敲してみましょう。

5月

シラフを祝おう

Clean Birthday

クリーンバースデー

人には誰にも誕生日があります。コロナ禍で休止が続いていますが、潮騒では月ごとに仲間たちの誕生日を祝う食事会を開いていますし、本紙でもページを割いて月ごとの誕生者を紹介しています。でも、アディクト(依存症者)なら実年齢の「リアル・バースデー」よりも、クリーンタイム(断酒、断薬、断賭博の期間)を祝う「クリーン・バースデー」の方が大きな意味を持ちます(5ページ参照)。潮騒JTCでも、バースデーといえばこのクリーンタイムを仲間たちと喜び、分かち合う記念日を先ず連想します。という訳で今回は、4月に開いた潮騒独自の「クリーン・バースデー」イベントの対象者を、コメントを添えて紹介します。アルコールや薬物、ギャンブルをストップして、新しい生き方に踏み出した仲間たちの、シラフで生きる意味と素晴らしさを紙面を通して再確認したいと思います。

ヒーサン



ユトリのある生き方を選びたいものです。

ナデキ



1年間、クリーンで過ごせました。これからもクリーンな生活を続けます。

ジーバ



なんとか、クリーン1年が過ぎました。次は2年、3年と目指していきたいですネ。

ミヤノ



2年目を目指して、クリーンでいきたいです。

ドラゴン



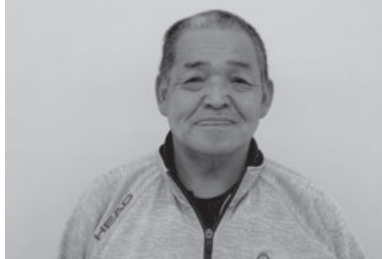
クリニックの手伝いなど色々やらせてもらっています。これからも継続していきます。

コン



3年目に向かって、継続しながらクリーンで頑張ります。

サク



薬を使わなくてよかった、1年です。

ブッチ



これから先も、潮騒JTCで自分の夢見つけたいんで、まわりの仲間たちとなるべく愛し合って、支え合って、酒を飲まないでエイサーも頑張っていきたいです。

ナン



仲間みなさん、ありがとう。いつまでもお付き合いしましょう。

4月の行事

- 4月8日 潮騒俳句会
 4月20日 ソフトボール大会
 デイケア vs 百寿
 4月24日 みその保育園 ボランティア
 4月30日 潮騒クリーンバースデイ

5月の行事予定

- 5月10日 日本ダルク35周年フォーラム (休止)
 5月13日 潮騒俳句会
 5月25日 ソフトボール大会
 デイケア vs 百寿
 5月27日 障害者福祉サービス事業所
 つばさ(所沢市)職員、
 「おらげのかまど」研修視察

感染予防対策を徹底して行います。
 状況に応じて中止や延期になる場合があります。

献金・献品を頂いた方 (5月15日現在)

- ・ 小川 登志枝 様 ・ 高田 武義 様
- ・ 株式会社オカミ
 代表取締役 岡見 正昭 様
- ・ 白砂 文雄 様、栄子 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。
 本当にありがとうございました。
 おかげさまで潮騒JTCは、回復のためのプログラムを実践することができておりますことをご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。ありがとうございます。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させていただきます。どうぞご理解のほどをお願いします。

ごまめの歯ざしり

コロナ禍での巣ごもり生活で人に会わない分、以前に比べるとテレビを見たり、読書する時間が増えた。気が滅入りがちな日常に、少しばかりの贅沢な時間を与えられたように感じている。それに新しい発見もある。先日、見ることもなく見ていたNHKの大河ドラマ「青天を衝け」が、それだ。僕はめったに大河ドラマは見ない。それが演出の方針なのかもしれないが、どうも出演者の歌舞伎役者みtainな、大向こう受けの演技が鼻につくからだ。それは置くとして今回は日本資本主義の父、渋沢栄一の波乱に富む生涯を描く作品だそう。その渋沢が幕末の水戸藩に深く関わっていたことは、このドラマを通して初めて知った ▼幕末の水戸藩といえば、血で血を洗う藩内の主導権争い(内ゲバ)で優れた人材を失い、肝心の明治維新には薩長土肥のように時代を動かす偉人たちが輩出できなかったことで知られる。その天狗・諸生両党の動きがドラマではよく描かれているように思った。ただ、両派の悲惨だった殲滅戦の暗い影は長く尾を引き、昭和に入っても諸生派の家系を引く家は表立ってそれを明らかにできなかった、と聞いたことがある。百姓に身をやつしてひっそりと暮らすしかなかったとか ▼ここからは我が家の話になるが、家系や血筋などには興味のない僕だけど、昔じいさんばあさんから「ウチは先祖が水戸藩の下級武士で天狗に付いた」と、まことしやかに聞かされた記憶がある。反対に母親の家系を辿ると、傍流ながら諸生派幹部の血筋を引いていることが分かり、「世が世なら結婚などあり得なかった」とも聞かされた。幼い頃の記憶なので我ながらあやしいが、貧しい百姓家でもルーツを辿れば時代や歴史にコミットするファミリーストーリーはあるものだと感心する。でも、それはどの家にも共通するのではないかと? ▼もうだいぶ減っているだろうが、今でも家系や血筋にこだわる家では、結婚に際して相手の格式を気にして興信所などにその調査を依頼するケースがあるようだ。これだけ人権尊重が叫ばれる時代になっても、結婚が当事者よりも家が優先されることを考えると、歴史に裏打ちされた無意識な優性思想のようなものは理屈を超えているのかもしれない。だとすれば、この負の連鎖はどうしたら断ち切れるのだろうか。ここで参考になるのはアディクションの世界でよく言われる「過去と他人は変えられない。変えられるのは未来と自分だけ」の名言だろう。ともすると内向きな空気が漂う昨今、この名言を励みに前向きに生きたいものだ。(勝)

潮騒通信 **どっこい生きてます!** 2021年5月号

Contents

P② 巻頭言: MESSAGE from YUTAKA

理想郷づくりに向かって走り続ける

P③ 現場の課題解決に向けて7チームを設置④「潮騒チーム・プロジェクト」を遂行するメカニズムに**P④** 正念場を迎えた潮騒農業の現状と課題「福祉農業」から脱皮し自立農業を目指す**P⑤** クリーンバースデイ「ワンデイ」の重みと意義を再確認**P⑥** シンジ回復期 vol.01 お酒で失った過去から新しく生き直したい **P⑦** 受刑者からの手紙**P⑧** しおさい俳壇 5月のお題「ほととぎす」 **P⑩** 5月のクリーンバースデイ **P⑪** 行事予定 / ごまめの歯ざしり / 献金・献品

■ 編集・発行: 特定非営利活動法人 潮騒ジョブトレーニングセンター
 理事長: 栗原 豊

本 部: 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210 番地 10

事務局: 〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4 丁目 4-5

潮騒アディクションビレッジ会館 4 階

TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

E-メール siosai2010@yahoo.co.jp

ホームページ <http://shiosaidarc.com/>

